



嘔吐と下痢には 水分補給が大切

感染性胃腸炎は、嘔吐、下痢、腹痛といった症状が出る感染症です。時に発熱も伴います。その原因には大きく分けて細菌とウィルスがあります。

細菌性の原因として、近年はカンピロバクター、サルモネラ菌、病原性大腸菌などが多いようです。充分に加熱できていない肉（特に鶏肉）、生卵、調理後に時間のたった食物などが原因になることがほとんどです。いわゆる食あたりです。数日遅れて症状が出ることもあり、さかのぼること一週間ぐらいの食事内容の確認が必要です。生肉を切った後のまな板や包丁に付いた菌で感染する場合があります。

ウィルス性の原因は、ロタウィルス、ノロウィルスがよく知られていますが、その他にもいくつかのウィルスがあります。嘔吐下痢症、ウィルス性胃腸炎とも言います。いずれも抗生物質が効きませんので、症状に合わせての治療を行います。

原因によって症状の軽い重いがありますが、経過は一定の傾向があります。吐き気と下痢と両方出る場合は吐き気・嘔吐・腹痛から始まり、遅れて下痢だけ残ります。

治療としては失った水分を補うのが大切です。電解質を含んだ飲み物を取り、それでも脱水がひどい場合は点滴が必要です。下痢には整腸剤で対処し、強い下痢止めは勧められません。ウィルス性の感染は嘔吐したものや下痢便が感染源になるため、予防には嘔吐物がかったものは洗い、洗えないものは塩素系の薬品で消毒するのがいいでしょう。